

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン 「挑戦」「共感」「感謝」の心と「考動」する力を大切にして、『チーム小林中』を合い言葉に、「生徒が主体となる学校」を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、「知・徳・体・食」の調和のとれた活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具現化を図り、信頼される学校づくりを推進する。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自 己 評 価	関 係 者 評 価	学校関係者のコメント
知 育	<p>【重点目標】 確かな学力の向上とキャリア教育の推進</p> <p>【目標達成のための手段・具体的な取組】</p> <p>1 「わかる・できる」を実感させる授業づくりの推進。</p> <p>2 ICTの活用を意図的・計画的に推進。</p> <p>3 学ぶ意欲を高めるキャリア教育を推進。</p> <p>4 各種検定の取得を推進。</p> <p>5 学習環境の整備と学習規律の徹底。</p>	<p>○ 指導教諭 2 名が授業公開を年 2 回行った。また小グループによる相互授業参観ではお互い指導のよさを取り入れる様子が見られ、授業力向上につながった。</p> <p>○ 授業での ICT 活用は高まりつつある。個人や教科で差はあるものの、ICT サポーターとの連携により、各教科の特性に応じて効果的な活用が図られている。(デジタルドリルの活用、課題配付、協働的な学びの場面の設定等)</p> <p>○ 学びたい度「将来の夢や目標をもっている」という生徒は 44% で昨年度より 19% 向上した。今後も「総合的な学習の時間」や「こすもす」を中心にキャリア教育の更なる充実を図る。</p> <p>○ 英検 IBA(英検)の合格率は 3 年 28.6%、2 年 62.5%、1 年 65.9% となっており学年でやや差が見られる。個人の現状を踏まえ英検取得への意欲向上を図る手立てを講じていきたい。</p> <p>○ 生徒会の主体的な取組により、立腰に対する意識向上や授業に臨む姿勢がよくなり、落ち着いた学習態度が定着しつつある。また、「メディアコントロール」の実施により、生徒自身が家庭での生活について見直す機会になった。さらに、生徒一人一人に目標を立てさせて取り組ませたことで、意欲を高めることにつながった。</p>	3. 0	3. 8	<p>○ 小グループによる相互授業参観が発言もよくでき、細かなところまでよく気が付き、授業力向上につながりますし、先生方の指導力向上につながるかと思いました。</p> <p>○ ICT 活用が必然的な時代になっているので、キャリア学習、こすもす科での更なる活用をお願いします。</p> <p>○ 学校の情報化が進む中、今後はさらに ICT の活用は広まると思います。生徒の授業がスムーズにいくよう ICT サポーターと連携して、業務改善を進めてください。</p> <p>○ 最適な学びの実現に向け、ICT のさらなる活用の検討と、家庭学習の習慣づけをより強化し、保護者と連携した取り組みを進めると効果的ではないでしょうか。</p> <p>○ 学び態度が 44% になり昨年よりも 19% 以上向上したことは頼もしいです。</p> <p>○ 「将来の夢や目標をもっている」という生徒が 19% 向上したことは喜ばしい限りです。生徒に対し夢や目標に向かって計画的に取り組むことを助言していただければと思います。</p> <p>○ 地域の人材を活用したキャリア教育や、ICT の活用、積極的な授業参観による、授業力の向上に向けた取り組みなど、生徒の学習意欲を高めるための工夫が見られ、授業の質が向上しているように思われます。</p> <p>○ 各種検定の取得について英検は高校入試の受験料免除等もあるが、大学受験では英検を重視する大学等もあると聞くので先を見据えて子どもたちに受験を促してほしい。</p>
徳 育	<p>【重点目標】 豊かな心の醸成と生徒指導の充実</p> <p>【目標達成のための手段・具体的な取組】</p> <p>1 いじめ・不登校対策委員会を中心として関係機関との連携強化、相談支援体制の充実。</p> <p>2 特別支援教育の充実と校内支援体制の確立。</p>	<p>○ 毎週、「いじめ・不登校対策委員会」を行い、いじめや不登校の解消に組織的に対応している。しかし不登校生徒の減少までは至っていないのが現状である。SSW や社会福祉協議会等の関係機関との連携を深め更なる状況改善につなげていきたい。</p> <p>○ 生徒の実態に応じた学びの場 (PST) を提供することにより、改善傾向が見られる生徒が少しずつ増えてきている。</p> <p>○ Q-U 検査における生徒の実態を学年会で検査結果を共有し手立てを講じた。また、「自己存在感」を高める手立てについては校内の主題研究として取り組み、改善が見られた。</p> <p>○ 特別支援委員会を定期的に開催し、情報の共有を図り共通実践や</p>	3. 1	3. 8	<p>○ 学校内に不登校生対応の教室ができて少しずつ生徒が戻ってきていることに感動しました。</p> <p>○ 肝付校長先生の「地域とのふれあい」で生徒を支えての発言にとっても喜んでいきます。</p> <p>○ 不登校対策にすごく前向きに取り組まれていて学びの場を市教育委員会と作っていかうとしている事にとっても感動しました。</p> <p>○ 「いじめ・不登校対策委員会」学校関係者だけではなく、SSW や社協職員等専門機関も入っており、「生徒を地域で支えるシステム」をチームアプローチで行</p>

<p>3 道徳教育及び人権教育の推進・道徳科授業と研修の充実。</p> <p>4 生徒の自主・自立を基本にした生徒会、ボランティア活動の活性化。</p> <p>5 規律ある生活習慣の定着。</p> <p>6 読書活動の推進。</p>	<p>支援、保護者との連携に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修を計画的に実施し、共通理解を図りながら道徳教育及び人権教育の充実に努めた。 ○ 生徒が自主的・主体的に活動できるよう支援した結果として生徒会役員の自主的な活動や学級の係活活動について改善が見られた。 ○ 生徒の挨拶（立ち止まって、語先後礼）が少しずつ良くなっている。 ○ 読書量については、1人年間12冊以上を達成している生徒が学校全体では約50%という状況であり、支援員との協力体制の成果と言える。 ○ 読み聞かせ活動は、計画的に実施することができた。今年度も3月には、3学年に贈る「お話し会」を予定している。 		<p>っていることは適正だと感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ不登校対策委員会を毎週行ったり、いじめ等に関するアンケートや教育相談を実施するなど、生徒が安心して過ごせる環境づくりが積極的に行われており、教職員の見守り体制が整っているように感じました。 ○ 生徒のメンタルヘルスと併せて先生の負担が大きくなるよう教師のメンタルヘルスにも留意していただきたい。 ○ 障がい児関係の施設のイベントに小林中学校の生徒が自主的に参加協力している姿を見かけました。今後そのような生徒を見かけたときは褒めていきたいと思えます。 ○ 特別支援教育においても、いじめ不登校対策委員会同様、全職員で情報を共有し、共通実践されているように思う。 ○ 学校行事においても、生徒会を中心として企画運営により、生徒の実践力が育まれているように感じる。 ○ 生徒の挨拶「立ち止まって語先後礼」とても難しいですが、少しずつよくなっているのはうれしいです。
--	---	--	--

<p>【重点目標】 体力の向上と健康安全の充実 【目標達成のための手段・具体的な取組】</p> <p>1 「体力向上プラン」の計画的・継続的な実践と部活動との連携による基礎体力の向上。</p> <p>2 健康教育の推進による健康への意識の高揚と健康管理能力の育成。</p> <p>3 安全教育、防災教育等の充実による安全意識の高揚と危険回避能力の育成。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育科によるスクールスポーツプランの計画的・継続的な取組により生徒の体力向上を図っており、各学年男女8項目、総計48項目中27項目で県平均以上であった。握力や50m走が課題となっており、対応が必要である。 ○ 部活動においては、各種大会で上位の成績を収めている。また、県大会や九州大会でも活躍し、表彰されている。 ○ 定期的な保健だよりの発行及び掲示物による啓発により生徒の健康に関する意識向上が図られている。 ○ 虫歯指導集会を実施し、虫歯予防の啓発を行った。虫歯治療率は1月末で57.8%で、前年度の同時期と比較して改善傾向である。今後とも家庭への啓発を行っていく必要がある。 ○ 中等度以上の肥満率は6.7%（29名）である。養護教諭を中心に個別指導に当たっている。 ○ 昨年度より避難訓練の一つとして「生徒の引渡し訓練」を行っている。本年度は小学校と合同で行った。保護者の協力もありスムーズに実施できた。 ○ 毎月、安全点検を実施し、危険箇所の修繕に努めている。学校用務員の方が速やかに対応していただいているため大いに助かっている。 	<p>3. 0 3. 8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小林中学校は各種大会で上位の成績を収めて誇らしいです。 ○ 全体的に目標を達成していて、特に部活動では子どもたちの活躍がすばらしかった。 ○ 体力向上については生徒それぞれ個人差があると思うので、生徒に合わせた個人目標を設定し、公平な取り組みで体力向上を図ってください。 ○ 全体的にスポーツプランに基づいた体育の授業や部活動の充実が生徒の健康管理意識や運動習慣の定着に貢献していると感じます。今後は運動が苦手な生徒に対して、配慮した指導や、多様な運動機会の提供を進めることで、より多くの生徒が体育を楽しめる環境になることを期待しています。 ○ 虫歯治療率も少しずつ改善傾向にあります。肥満率の改善が必要かと思えます。 ○ 虫歯治療率が57.8%と向上していることは素晴らしいことです。今年度の実績を活かし、今後も継続して取り組んでください。 ○ 毎月の安全点検、危険箇所を生徒たちに教えながら改善してほしい。 ○ 安全管理や防災教育についても、高い意識をもって取り組まれていることが評価できます。
--	--	------------------	--

食育	<p>【重点目標】 食育の推進</p> <p>【目標達成のための手段・具体的な取組】</p> <p>1 全職員での給食指導によるマナーの育成と食育の推進。</p> <p>2 「弁当の日」の実践による自立と感謝の心の育成。</p>	<p>○ 残食は6月の調査では3.1%、11月は2.0%であった。残食ゼロの目標達成は難しい現状であるが、残食量は減少傾向である。今後とも栄養教諭、養護教諭を中心に職員全員が協力して指導や啓発を継続していく。</p> <p>○ 全職員で給食指導を行っている。特に今年度は、「食事のマナー」「バランスのよい食事」等について、給食時間中における栄養教諭による各教室での巡回指導等で啓発を行った</p> <p>○ 「弁当の日」の取組は、年1回ではあるが、学級担任と栄養教諭で協力しながら計画的に実施している。各家庭によって取組に差はあるが、親子が触れ合う貴重な時間となっていると感じる。</p>	3.0	3.3	<p>○ 残食ゼロの目標達成は生徒の体調によるものがあるので難しいかと思いました。</p> <p>○ 残食についてはなかなかゼロを達成するのは難しいと思います。2%でも十分に結果を出せていると思います</p> <p>○ 「食事のマナー」「バランスのよい食事」は特にあらゆる病気の原因になるので先生方の巡回指導は喜ばしい。</p> <p>○ 全職員による給食指導が、食の大切さの理解と、健康的な食習慣を身に付けるための取り組みにつながっていると思われます</p> <p>○ 食育に関しては、バランスのとれた食事は若い世代も高齢者も同じですので、何かの機会に『高齢者の食事』について取り組んでみてはどうかと思いました（高齢者も肉や魚等のたんぱく質は必要であり、同時に野菜を摂取しバランスの取れた食事をとることが健康で長生きにつながります）。</p> <p>○ 「弁当の日」は親子でふれあい、食育の大事さを知る機会でもあるため長く続けていただきたい。大人になっても大いに役立つと思います。</p> <p>○ 弁当の日は行うタイミングもそうですが、本当に実施しているのかと思うところもある。</p> <p>○ 残食ゼロの目標達成は難しいと思いますが、目標はそのまま据え置いて、令和7年度も取り組んでください。</p> <p>○ 「弁当の日」の取り組みについては、家庭環境によって様々だと思いますが（弁当の日の）実施時期、行事等を考慮して継続してください。</p> <p>○ 更なる家庭を巻き込んだ「弁当の日」の実践により、栄養のバランスを考えた献立づくりや、食への関心を深める工夫に繋がるといいです。</p>
----	--	--	-----	-----	--

次年度の方向性についての校長所見	<p>次年度は、全職員が『チーム小林中』をモットーに、生徒の5年後・10年後の将来を見据え「知・徳・体・食」のバランスのとれた成長を目指して、学校・家庭・地域がより一層連携・協働しながら様々な教育活動に取り組む。特に、「確かな学力の向上」及び「不登校傾向及び不登校生徒の減少」を重点課題として、学校の教育目標の具現化を図っていきたい。また、ICT機器の効果的な活用をはじめとする個別最適な学びの実現と多様な学びの場の確保に努めるとともに、キャリア教育・特別支援教育の充実を図っていく。さらには、「働き方改革」を積極的に推進することで、生徒及び教職員の生き生きとした姿があふれる小林中学校にしていきたい。</p>
------------------	---